

3つの1,000億の実現

- ・ 施設更新費用の削減
- ・ 企業の直接投資
- ・ 毎年の生産活動効果



2022（令和4）年3月改訂案
静岡県企業局

第1 計画策定の趣旨

■ 現在の計画・・・H30経営戦略を策定

計画期間：2018年度（H30）～2027年度（R9）の10年間
（策定の経緯と背景）

○工業用水道及び水道事業

- ・水需要の減少（企業の生産規模縮小、節水技術の向上、人口減少等）
- ・施設・管路の更新に係る長期ビジョンの必要性

○地域振興整備事業

- ・“ふじのくに”のフロンティアを拓く取組の推進

■ 戦略策定後の経営環境の変化

（見直しの必要性）

○工業用水道及び水道事業

- ・ **経営革新による収支改善の必要性**

○地域振興整備事業

- ・ **アフターコロナに向けた用地造成の必要性**



経営戦略の見直しを実施（R3）

【1,000億円の削減、1,000億円の直接投資、1,000億円／年の生産活動効果】

■ 経営戦略見直し後の計画期間

当初経営戦略を引き継ぎ、**2018年度（H30）～2027年度（R9）の10年間とし、2022年度（R4）以降を見直し**

第2 現状と課題

事業	現状	H30～R3の事業評価	方向性
工業用水道事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>配水量は減少</u>傾向。それに伴い収益も減少傾向 ・ 費用は収益の減少ほどには減少せず、近年横ばい ・ 結果、損益は減少傾向 ・ <u>一部の事業で赤字を計上し、厳しい経営状況</u> 	<p><工水・水道共通></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>組織の適正化</u>を図るため、電気、水質技術者を各1名増、土木を1名減 ・ タスクフォースの取組により、<u>1～3億円/年の損益改善</u> 	<p><工水・水道共通></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材確保、技術力の向上 ・ DBO等 <u>官民連携手法導入</u> ・ 維持管理の徹底による施設の長寿命化 ・ <u>施設規模の適正化</u> ・ <u>新たな管路整備手法確立</u> ・ <u>経営革新による経費削減と収益確保</u>
水道事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>配水量は横ばい</u>傾向。それに伴い収益も横ばい ・ 費用も近年は横ばい傾向 ・ 結果、損益も横ばい傾向 ・ <u>経営状況は総じて安定</u> 	<p><工水></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>西遠、中遠の料金改定</u> <p><水道></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>試掘不要な漏水判定技術を確立し市町と協定締結</u> 	
地域振興整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ H22以降バブル経済崩壊後の赤字基調を回復 ・ H26～H29は売却用地がなく赤字を計上 ・ <u>H30以降「富士山麓フロンティアパーク 小山」売却により黒字を回復</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>「富士山麓フロンティアパーク 小山」の完売</u> ・ 関係部局・市町との連携と情報共有 ・ 補助金を活用した開発候補地の事業化 ・ <u>販売・造成における新たな手法の導入</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適時・適切な工業用地等の供給 ・ <u>自己資金を活用した先行用地造成（セミ・レディーメイド方式の活用）</u> ・ <u>地域の産業振興に寄与し、経済に好循環を促す用地造成</u>#